



ロンドンバーク
日本
知事
十一月二日
金曜日
オセチ六号

ソロモン大海戦々果

日本側は五隻撃沈され
米側は八隻撃沈される
米海軍省公報による

華府十九日UP報道によれば米海軍省は去る十一月十四日五西日の日米海軍戦は世界的に大戦のシットランド海戦以上の記録的のもので其の戦果として日本艦隊の戦艦五隻を撃沈したと報じた。其の戦果の内譯は前に発表せしものと相違せし。其多く昨日附に次の如く報じた。

(内譯)米海軍は日本戦艦二隻を撃沈したが、そのほか重巡洋艦二隻、駆逐艦三隻、その他巡洋艦三隻並に駆逐艦一隻、合計五隻を撃沈した。之に對し米海軍は戦艦二隻、重巡洋艦一隻、駆逐艦三隻、その他巡洋艦三隻、合計八隻を日本海軍のために撃沈したと報じた。其の内の一は、昨日の海戦に就いては日本巡洋艦及駆逐艦にて編成せる一艦隊がゴラール沖に大赤を冒して出沈して

あると去る八月にミルネ湾上陸前の日本艦隊の行動と同じであり必ず何所かに上陸するものと見てマナーサーは空の要塞を急派して双方とも亦、隠れん坊に戦術に入つた。

獨逸ゲブ港を占據

伊國艦隊聯合艦隊と對峙
陸軍前線衝突の氣構まへ

倫敦十九日INS及UPはニューニシア争奪戦白熱化し獨逸軍は終にゲブ港を占領し聯合軍を退した。ニューニシア越若級タンクをヒサシテ軍港及ニューニス首府方面に集結し続々空輸隊が往復してゐる。アンタニンオ一軍英兵司令長官は少數の米兵を伴つて二歩々東進してゐる。シラウ反將の令下にバーレ將軍が前線に出でゐる。ロムル將軍は之に對して十九日午前七時を限り降伏しなけれは攻勢を執るべしと最後の通牒を發した。又ヒュンツト提督の司令下に更に大編成の艦隊が再三地中海上をニューニスに向き東進し海陸相伴つて東面し来るに對し伊太利艦隊は伊太利とチユリツツと西面し連結線と張つて西面して之を迎へ近づくも一大海戦ある筈と見られてゐる。

十一月二十日の世界

オレゴン中毒事件、リセラム州の病院の中毒事件は終に四十七名の死亡者を出した。原因は食料品腐敗の結果に非ず。多分米軍用とせし食料品中にサボタージュが計画的毒薬を混入せしめたためとも疑はれる。B. 活動す。

第八軍の位置、リビア西進中、第八軍は目下ベンガチ港南西に出た。高架索戦況、十九日クロスニ油田戦区にて大戦、独露相互死傷多し。獨逸の再買取、獨逸は佛領に於ける米貨物交換の擧取引を取締り、再對平四四ランク、率を犯す者は死刑に所す。佛国外交官收容、交換艦未着まで。インスタンヤル、佛国大使以下十五名の外交官は、ベンシルバニア州、ハシー市のミリオンタライ、ハシー、ホテルで優待されてゐる。

病院より
佐々木代次郎 (岩手)

南米パラグワイ國 (三)

農業、材木業、牧場を主とし、牛馬羊等の頭数は人口約四倍に當り、皮革、肉類、罐詰を輸出し、之が国民歳入の

大部となる。加ふるに棉花、砂糖、煙草及び製革法、エキストラクトや若い密柑の葉から取つた香料やも輸出す。此外にマテ茶や香料や一般愛用の、パラグワイ茶なども輸出さる。

マテ茶はアルゼンチンやブラチルにも生育するが小さきエルバ、マテと云ふ木の葉を焙じて粉となしたもので南米諸國に廣く用ゐらる。

近年米國へ賣出したる品々、内には桐油があり、以前支那から輸入した桐油の代りになつてゐる。國內の需用を充たすもりに玉蜀黍、米、豆、甘藷、バナナ、土人の常食に供するメニオックと稱する木の根から出た澱粉等、工業は未だ國富の重要部を占めてはゐない。

鉄、水銀、銅、マカニ、等の礦物は少なからずと、このほかにも未だ発見せざ。パラグワイ國にては各市に河あり、各戸に細流ありと云はれ、水流極めて多く、其内にパラナ、パラグワイの二大河あり、國內を縦横に分かつ。

パラグワイ河に沿へる市に首都アサンシヤンあり、此都は港でもあり、全國人口の十分の一、此都に住す。此港の改良事業に近來は洋行數百が其費を負擔し、浚渫を行はんと倉庫を建設した。

